

## 2004年暮らし向き調査結果

当センターでは、県内の消費行動を探るため南都銀行 23 か店の来店客を対象に、「暮らし向きアンケート調査」を実施し、その結果を取りまとめましたのでお知らせします。

### 《要 約》

#### ①暮らし向き動向

1年前（2003年）と比べた現在の暮らし向きDI\*は $\Delta 28.7$ で、1年前（ $\Delta 34.8$ ）に比べ6.1ポイント上昇している。また、今後（1年間）の暮らし向きDIは $\Delta 25.6$ で現在よりも3.1ポイント良くなる予想になっている。

※DIとは、アンケート結果の分散程度を指数化したもので、「良くなった」+「やや良くなった」から「悪くなった」+「やや悪くなった」を差し引きした指数をいう（以下同様）。

#### ②消費支出動向

現在の消費支出DIは24.0となり、1年前に比べて9.3ポイント上昇した。年代別では、30代のDIが最も高くなっており、消費支出が増加した理由は「出費がかさなった」が最も多く、増加要因となった費目は「教育費」であった。

1年後の消費支出DIは、マイナスに転じ $\Delta 34.9$ になるとしている。すべての年代で現在より支出を減らすと答えている。

#### ③貯蓄目的

「老後の備え」、「病気や不時の災害への備え」が、昨年同様高い水準を占めている。

#### ④購入予定商品

上位から「国内旅行」23.1%、「教育費」21.4%、「海外旅行」13.9%となった。消費者は耐久消費財等の物を購入するよりも、旅行などのサービス関連への消費を考えている。

#### ⑤消費行動

「同じ商品なら少しでも安い店で買う」74.0が最も高い比率を占め、その割合は昨年より5.7ポイント上昇した。

#### ⑥サービス・レジャー等の支出

1年前と比べた現在の支出DIは「補助教育費」 $\Delta 0.4$ が最も高い。次いで「教養娯楽費」 $\Delta 14.9$ 、「外食費」 $\Delta 15.7$ となっている。

#### ⑦買い物・レジャー等の支出

今後の買い物やレジャーの支出については、「増やす」14.7%、「減らす」37.8%、「考えていない」44.4%となった。支出DIは昨年より6.2ポイント上昇した。

「減らす」理由としては、「世帯の収入が減った」41.1%が最も多く、次は「老後の生活不安」28.5%であった。

## 1. 暮らし向き動向

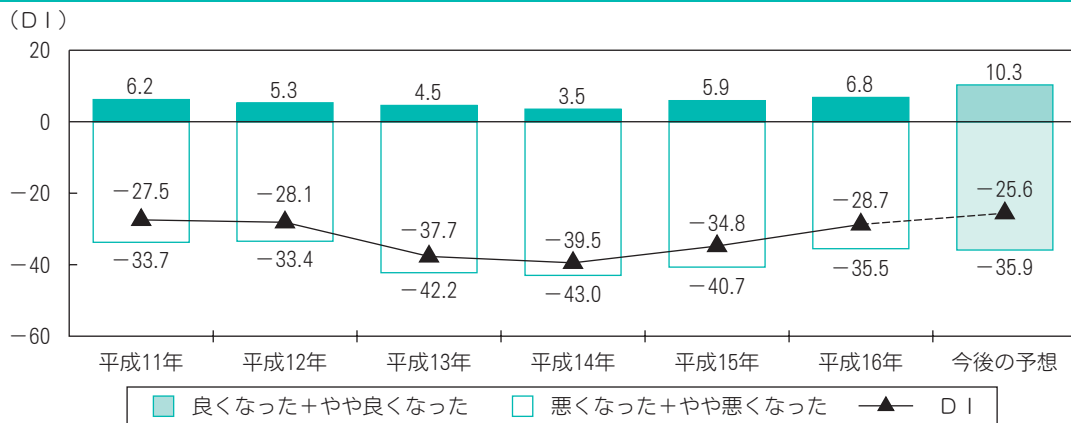
<現在>

1年前（2003年）と比べた全体の暮らし向きを見ると、暮らし向きDIは△28.7となり、昨年にかけてDIが6.1ポイント上昇し、暮らし向き感が良くなっている。

年代別に見ると、29歳以下では「良くなった」と「悪くなった」の割合が同じであった。

一方、暮らし向きDIのマイナス幅が最も大きいのが40代で△36.3であった。次いで60代が△34.7となっている。しかし、すべての年代で暮らし向きDIは昨年より良くなっており、29歳以下では17.8ポイント、50代は10.9ポイント上昇している。

現在の暮らし向きDI（1年前に比べ）



<1年後（2005年）>

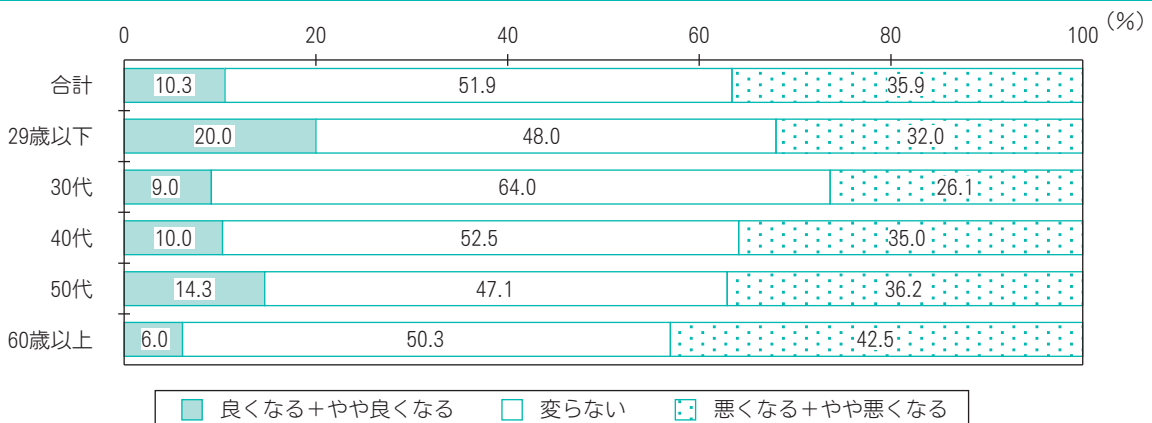
今後1年間の暮らし向き予想としては、全体の暮らし向きDIが△25.6と現在よりも3.1ポイント良くなると予想している。

年代別に見ると、現在より良くなると答えたのは40代（11.3ポイント上昇）、30代（6.3ポイント上昇）、50代（3.3ポイント上昇）であった。

現在よりDIが悪くなると答えたのは、29歳以下（12.0ポイント悪化）、と60歳以上（1.8ポイント悪化）であった。

昨年に引き続き、今後の暮らし向き予想は良くなると答える人の割合が増えてきており、暮らし向きのイメージは改善されてきている。

今後1年の暮らし向きについて



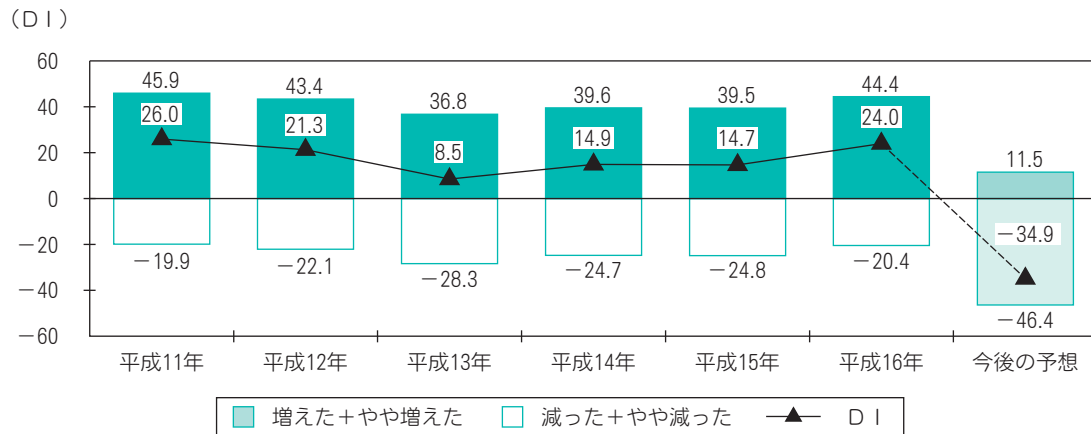
## 2. 消費支出動向

<現在>

1年前（2003年）と比べた全体の消費支出は、「増えた」と答えた人の割合が44.4%で、「変わらない」が34.2%、「減った」が20.4%であった。消費支出DI（以下消費DIという）は24.0で昨年より9.3ポイント上昇した。

年代別の消費DIは、すべての年代で昨年より上昇していた。消費DIが最も高かったのは30代（47.7）で、「増えた」の割合が61.3%あった。次は40代（32.5）であった。一方、最も低いのは60歳以上（15.6）であった。

現在の消費支出DI（1年前に比べ）



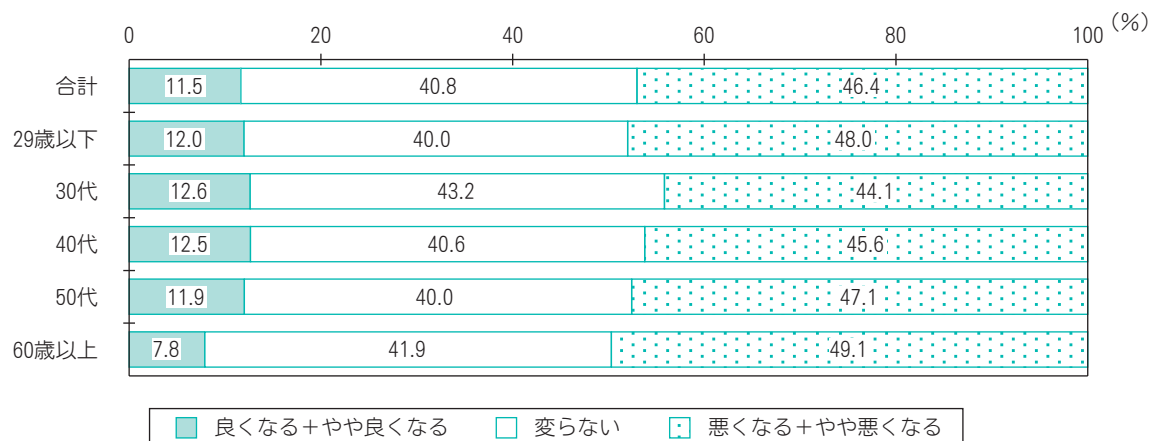
<今後1年間（2005年）>

1年後の消費DIは、現在の消費DIより大きく低下してマイナスに転じ△34.9になっている。「減らす」と答えた人の割合は46.4%であった。

年代別では、60歳以上の消費DIが△41.3と最も低い。すべての年代で今後1年間の支出を

「減らす」と答えた人の割合は4割を超えている。このように現在よりも支出を減らすと答える人の割合が増えるのは毎年同じ傾向であり、減らそうと考えていても、実際には消費支出は増える結果となっている。

今後1年間の消費支出について



## 3. 消費支出の増減理由等

### (1) 消費支出の増加理由および増加費目

「増加した」と答えた 309 人を対象に、その理由をたずねた結果、「出費がかさなった」が 79.3%で最も多かった。

「増加」の要因となった費目（複数回答）は「教育費」が 35.9%と最も多く、次いで「飲食料品」（27.8%）、「交際費」（21.7%）、「保健医療費」（20.7%）の順となった。「住居費」（18.4%）は、昨年と比べて 9.6 ポイント上昇している。

年代別に最も多い費目を比べてみると、29 歳以下は「住居費」（50.0%）、30 代は「住居費」・「自動車関連費」・「教養娯楽費」（27.9%）の 3 項目が並んだ。40 代と 50 代は共に「教育費」（67.9%、35.8%）、60 歳以上は「保健医療費」（37.7%）であった。それぞれの年代の特徴が顕著に現れた結果となった。

### (2) 消費支出の減少理由および減少費目

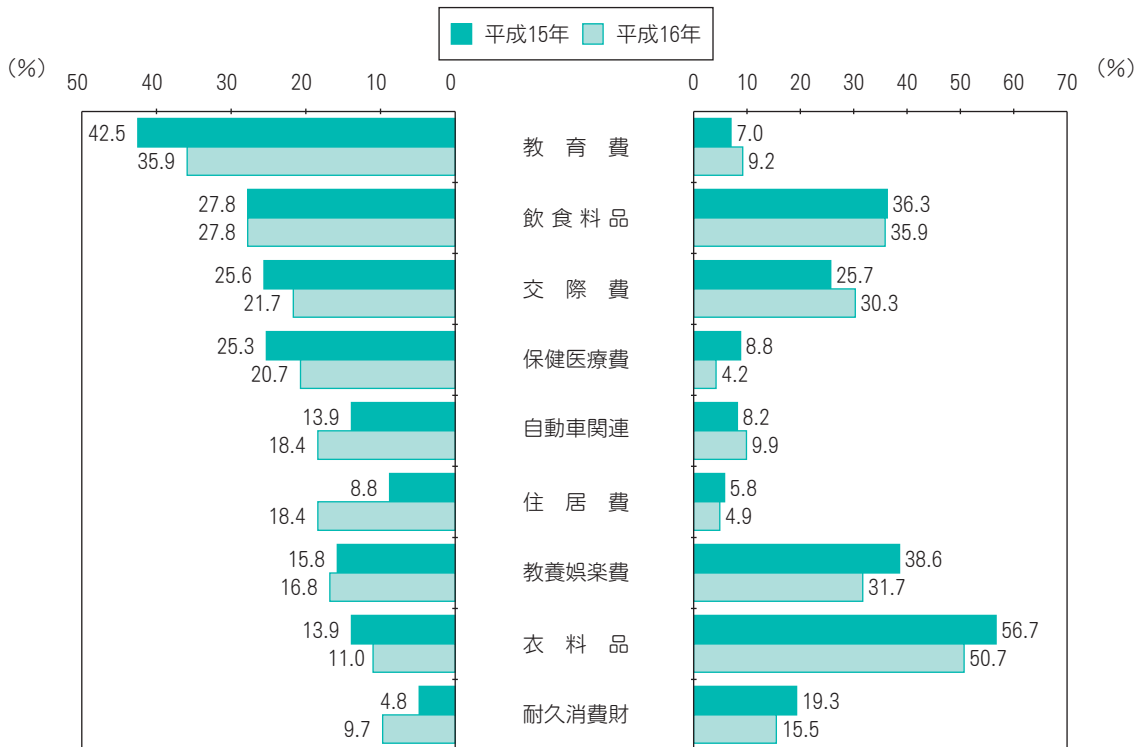
「減少した」と答えた 142 人を対象に、その理由をたずねた結果は、「収入が減少した」（45.1%）が最も多く、次いで「節約した」（43.0%）となった。

「減少」の要因となった費目（複数回答）は昨年と同様「衣料品」が 50.7%で最も多く、「飲食料品」（35.9%）、「教養娯楽費」（31.7%）、「交際費」（30.3%）の順になっている。

このうち「飲食料品」と「交際費」は支出が増えた費目でも上位に挙げられており、2 極化の傾向にあると思われる。増減を年代別で見ると、「飲食料品」が増加したのは 29 歳以下と 30 代で、減らしたのは 30 代と 60 歳以上であった。30 代では世帯によって分かれる結果となった。「交際費」は 50 代と 60 歳以上で増加し、30 代が減らしていた。

支出が増加した費目（複数回答）

支出が減少した費目（複数回答）



#### 4. 貯蓄目的（複数回答）

<全体>

今後1年間の貯蓄額については「増やす」（31.3%）、「減らす」（17.0%）となり、貯蓄DIは昨年よりも0.4ポイント低下した。

貯蓄の目的は、「老後の備え」（49.6%）が最も多かったが、その割合は昨年より3.2ポイント減少した。続いては「病気や不時の災害への備え」（42.2%）、「教育資金」（30.5%）が続いている。

「耐久消費財購入資金」（9.2%）だけが昨年を上回り、その他の項目は昨年の割合と同じか、少し下回っている状況であった。

<年代別>

年代別に特徴を見てみると、29歳以下では昨年1位であった「教育資金」は4位に後退し、「住宅資金」（昨年3位21.4%）がトップになっている。2位の「レジャー資金」は昨年（17.9%）の割合のほぼ2倍に上昇している。

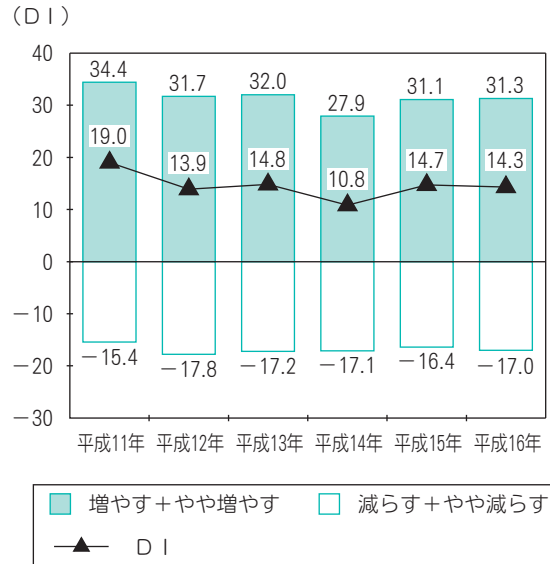
30代、40代は例年通り「教育資金」が最も多くなっている。30代では次にくるのが、「病気や不時の災害への備え」（39.6%）、40代は「老後の備え」（41.9%）であった。50代、60歳以上は「老後の備え」、「病気や不時の災害への備え」の割合が高くなっている。

50代では3位が「教育資金」（16.2%）で、60歳以上では「レジャー資金」（12.6%）となっていた。

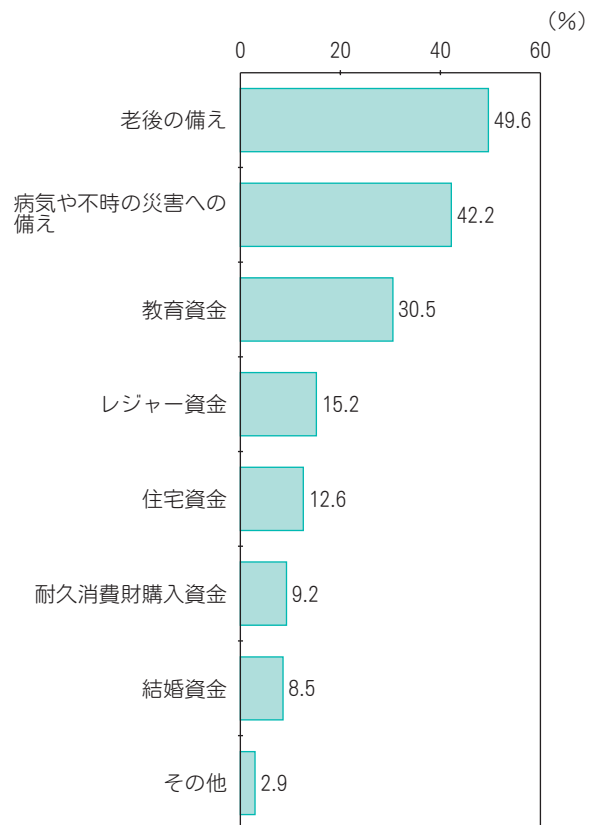
##### 年代別貯蓄の目的の上位2項目

	第1位	第2位
29歳以下	住宅資金 (40.0%)	レジャー資金 (36.0%)
30代	教育資金 (53.2%)	不時の備え (39.6%)
40代	教育資金 (60.6%)	老後の備え (41.9%)
50代	老後の備え (57.6%)	不時の備え (43.8%)
60歳以上	老後の備え (65.3%)	不時の備え (49.1%)

##### 今後1年間の貯蓄DI



##### 貯蓄の目的（複数回答）



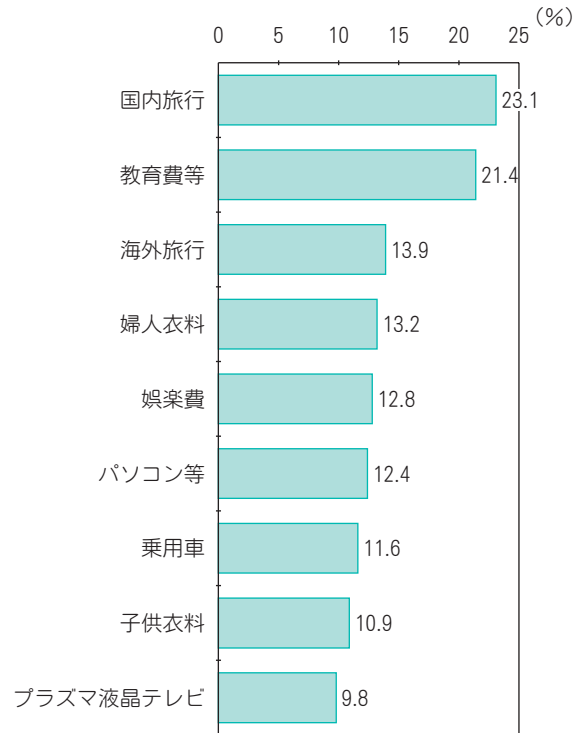
## 5. 購入予定商品（複数回答）

購入予定商品のうち最も多いのは「国内旅行」（23.1%）、続いて「教育費等」（21.4%）、「海外旅行」（13.9%）の順となった。全体的には、耐久消費財よりも衣料品・サービスが上位を占めている。消費者は物を購入するよりも旅行などサービス関連への消費を考えていることがうかがえる。

年代別に消費の特徴を見てもその傾向が現れている。「国内旅行」は60歳以上、50代、30代、で高い割合となっている。「教育費・自己啓発費」は40代と29歳以下で最も多くなっている。30代は「子供用衣料」が最も高かった。しかし、次に高い品目は各年代によって違っている。29歳以下は「娯楽費」、30代「国内旅行」、40代「子供用衣料」、50代「教育・自己啓発費」、60代「海外旅行」という結果になった。

\* 毎年購入予定商品の質問を実施しているが、今回は商品に旅行等のサービスを追加するなど項目を変更した為、昨年との比較は行っていない。

今後の主な購入予定商品（上位10品目）



購入予定商品（複数回答）

購入予定商品	合計	年 代 別					既 婚、 独 身 別		
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	既 婚	独 身	
耐久消費財	冷暖房器具・エアコン	6.2	12.0	7.2	5.0	5.2	6.6	6.7	4.8
	テレビ	9.3	0.0	9.0	8.1	9.5	12.0	9.1	5.7
	プラズマ・液晶テレビ	9.8	12.0	9.0	8.1	8.6	11.4	9.5	7.6
	DVDレコーダー	6.8	4.0	11.7	8.1	7.1	2.4	6.8	9.5
	パソコン・周辺機器	12.4	12.0	15.3	16.3	9.0	10.2	12.5	12.4
	デジタルカメラ・ビデオカメラ	5.5	0.0	9.0	4.4	5.2	4.2	5.1	8.6
	食器洗い乾燥機	3.3	0.0	1.8	4.4	4.3	2.4	3.8	2.9
	乗用車	11.6	8.0	11.7	12.5	13.8	9.0	11.6	10.5
衣料品・サービス	靴・ハンドバッグ	5.7	12.0	6.3	8.1	5.2	3.0	4.4	16.2
	紳士物衣料	9.6	12.0	11.7	13.1	10.0	4.8	10.8	7.6
	婦人物衣料	13.2	20.0	20.7	13.1	11.9	9.0	11.0	26.7
	子供用衣料	10.9	20.0	28.8	16.9	1.9	4.2	13.7	2.9
	家具・インテリア用品	8.3	20.0	10.8	7.5	7.1	7.8	7.8	10.5
	スポーツ・レジャー用品	5.7	0.0	9.0	6.3	6.2	4.2	5.5	9.5
	国内旅行	23.1	20.0	26.1	15.6	21.0	31.1	24.9	19.0
	海外旅行	13.9	24.0	9.0	6.9	18.1	18.6	13.9	19.0
その他	教育・自己啓発費	21.4	28.0	21.6	38.1	18.6	8.4	24.1	16.2
	娯楽費	12.8	28.0	18.0	12.5	10.5	11.4	12.7	16.2
その他	4.7	0.0	3.6	3.8	3.8	7.8	4.9	5.7	

## 6. 消費行動

買い物などの消費行動DIの変化について見てみる。

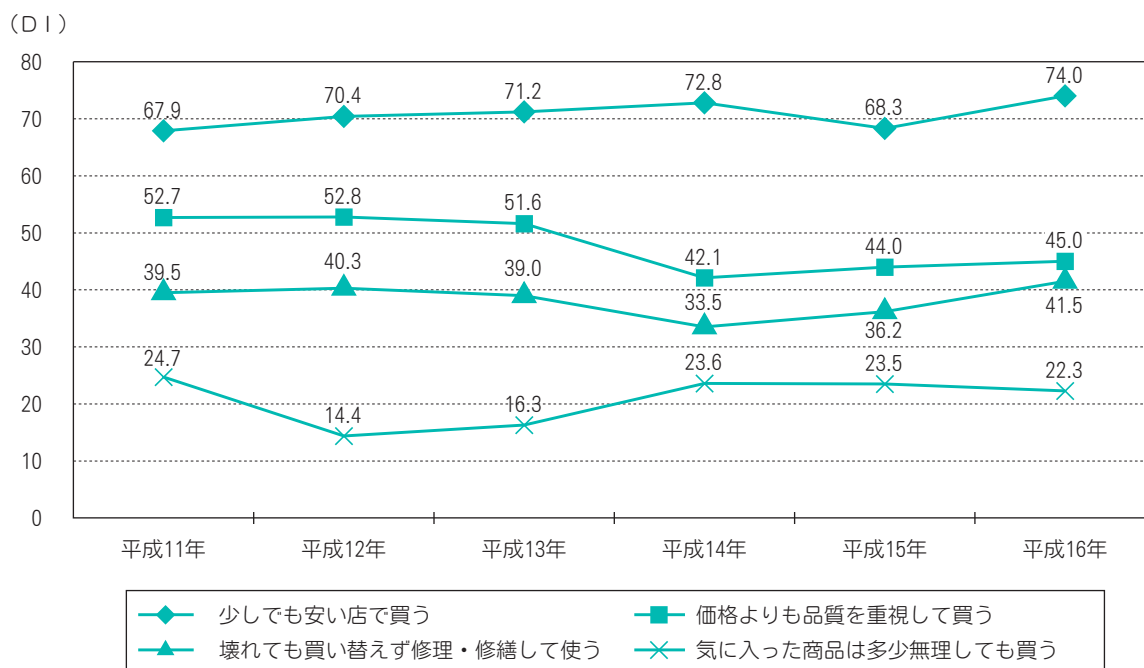
「同じ商品なら、少しでも安い店で買う」(74.0)が前年と同様に高い比率を占めており、その割合は5.7ポイント上昇し、今までで最も高い割合となっている。29歳以下、30代、40代、50代の各年代で「少しでも安い店で買う」との答えが8割を超えた。残る60歳以上だけが7割であった。

「価格よりも品質を重視して買う」(45.0)と答えた割合は昨年よりもわずかに上昇したが、まだ5割には届いていない。依然として低価格指向が続いている。そのような中で60歳以上の年代だけが「品質を重視する」との答えが7割を超えた。高齢者では安さ以外の消費欲求が出てきているように思える。最もDIが低い年代は、30代の21.6ポイントで、昨年よりも8.0ポイント低下した。子供に教育費や衣料費などの必要経費がかさむ年代では、少しでも安い価格が求められている。

「壊れてもすぐに買い替えず修理・修繕する」(41.5)のDIも5.3ポイント上昇した。DIが最も高い年代は、60歳以上の50.9ポイント、続いて40代の47.5ポイントであった。一方、DIが低かったのは29歳以下の28.0ポイントと、30代の25.2ポイントであった。若い年代では修理すると答えた人が4割で、40代より上の年代は6割を超えた。

「気に入った商品は、多少無理しても買う」(22.3)は昨年よりもわずかに低下した。DIが最も高かったのは、29歳以下(36.0)と60歳以上(30.5)であった。昨年と比べてみると29歳以下では50.0ポイントから14ポイント低下しているのに対し、60歳以上では17.0ポイントから13.5ポイント上昇している。一方、DIが低いのは40代(16.9)と50代(16.2)であった。40代は昨年とほぼ同水準であるが、50代は31.0ポイントから14.2ポイント低下している。

消費行動DIの変化





## 7. 費目別サービス・レジャー支出

<現在>

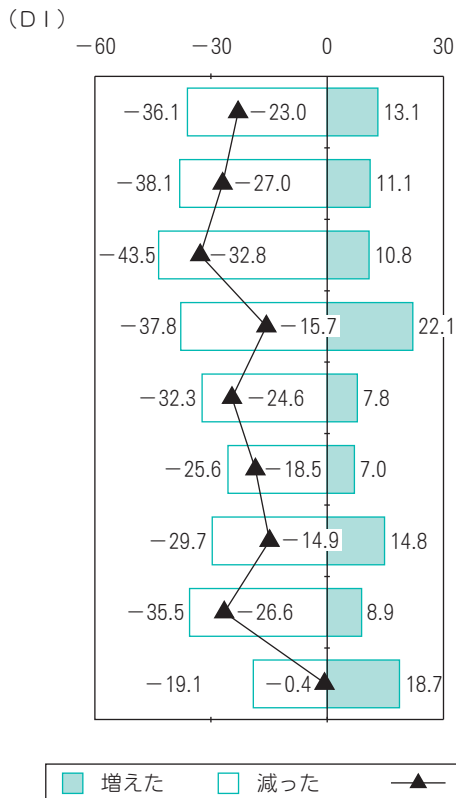
1年前（2003年）と比べたサービス・レジャーに関する支出DIは、「補助教育費」△0.4が最も高い。次いで「教養娯楽費」△14.9、「外食費」△15.7となっている。旅行関連の支出DIは、全体の中では支出DIが低いレベルにあり、その傾向に変化はないが、「減った」と答えた人の割合は昨年より1割ほど減少している。支出DIが最も低い「二泊以上の旅行」は昨年と比べるとDIの上昇幅が最も大きく12.3ポイント上昇している。消費者は少しずつではあるが、旅行にもお金を使っているようすがうかがえる。

<今後1年間（2005年）>

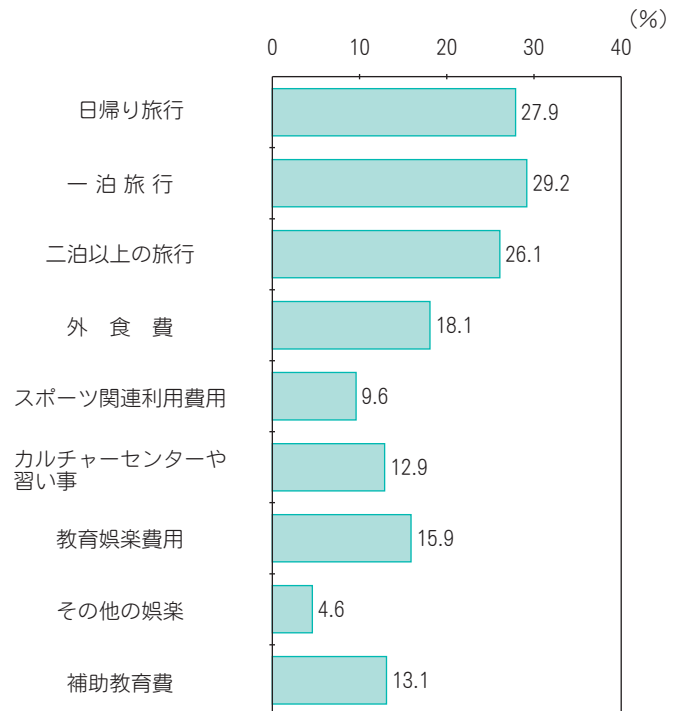
今後1年間に、サービス・レジャー等の支出を考えているもの（複数回答）としては、「一泊旅行」29.2%、「日帰り旅行」27.9%、「二泊以上の旅行」26.1%であった。これからの支出も旅行関連を増やそうと考えている人が多い。年代別に旅行の傾向を見てみると、29歳以下では「一泊旅行」と「二泊以上の旅行」を増やそうと考えている。30代は「日帰り旅行」、50代は「二泊以上の旅行」、60歳以上は「日帰り旅行」も「一泊旅行」も「二泊以上の旅行」も増やそうと考えている。

そして、各年代とも「増やす」と答えた人の割合はすべて3割を超えている。

1年前と比べた支出



今後1年間の支出予想





## 8. 買い物・レジャー支出の減少理由（複数回答）

今後の買い物やレジャー支出について「増やす」は14.7%、「減らす」は37.8%、「考えていない」44.4%となり、昨年よりは「増やす」が2.5%の増加、「減らす」が3.7%の減少となり、DIは6.2ポイント上昇した。

「減らす」理由としては「世帯の収入が減った」(41.1%)が最も多いが、昨年よりは3.2ポイント減少した。一方、「老後の生活不安」(28.5%)は4.1ポイント増加し、続いて「医療費など負担が増えた」(21.3%)も3.5ポイント増加している。

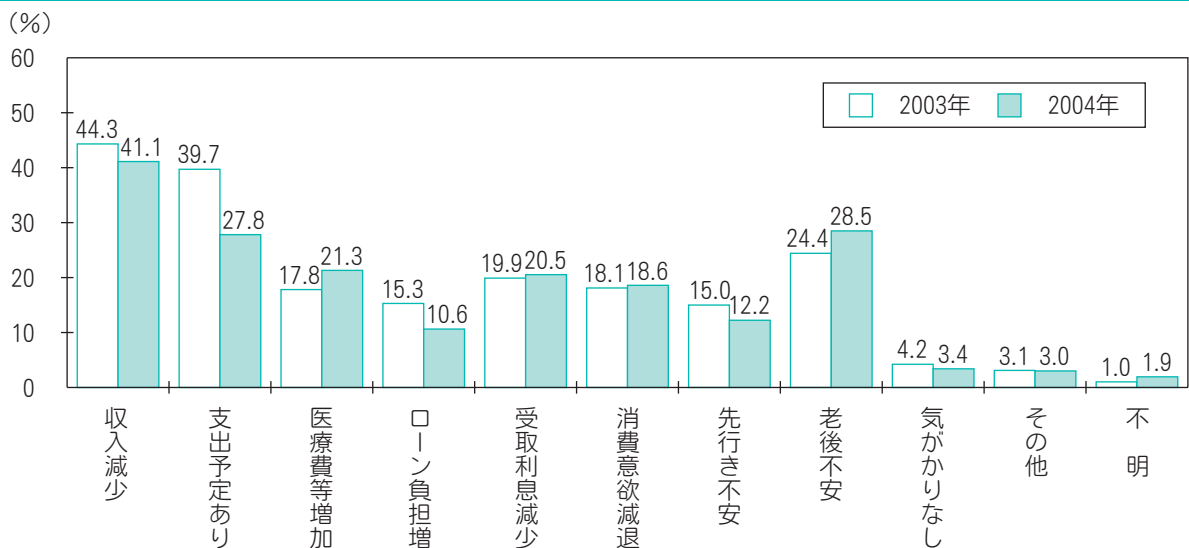
「支出を減らす理由」について、項目別に各年代の特徴を見ると、「世帯の収入が減った」は60歳以上(53.6%)と40代(40.0%)が高かった。「老後の生活不安」は直面する実感として60歳以上(47.8%)、50代(40.0%)の高齢者層で高かった。「特別な支出予定がある」は29歳以上(50.0%)と40代(46.7%)で高くなっていた。「医療費・税の負担増」は29歳以下(40.0%)が最も高く、次は60歳以上(26.1%)であった。

(奥 桂子)

### 今後の買い物やレジャーへの支出DI



### 支出を減らす理由（複数回答）



# Research

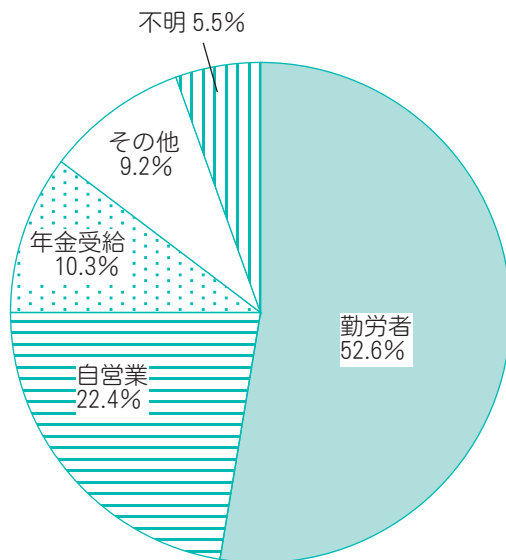
## 【調査要領】

- (1) 調査場所…… 次に掲げる奈良県下の南都銀行店舗 23か店  
 本店営業部、西大寺、平城、学園前、富雄、生駒、東生駒、郡山、天理、桜井、榛原、  
 大淀、高田、香芝、新庄、御所、橿原、神宮前、王寺、西大和、法隆寺、田原本、五条
- (2) 調査日…… 2004年10月5日
- (3) 調査方法…… 上記店頭において無記名で記入
- (4) 調査対象者数 700人  
 うち有効回答者数 696人  
 有効回答率 99.4%
- (5) 調査対象者の属性

(上段：人、下段：構成比 %)

年 齢	29歳以下	30代	40代	50代	60歳以上	不明	合計
独身男性	18 54.6	8 24.2	3 9.1	3 9.1	1 3.0	0 0.0	33 100.0
独身女性	31 43.1	25 34.7	8 11.1	7 9.7	0 0.0	1 1.4	72 100.0
既婚男性	8 5.9	21 15.3	31 22.6	41 29.9	35 25.6	1 0.7	137 100.0
既婚女性	18 4.6	77 19.9	128 33.0	109 28.1	49 12.6	7 1.8	388 100.0
不明	0 0.0	1 1.5	4 6.1	1 1.5	16 24.2	44 66.7	66 100.0
合計	75 10.8	132 19.0	174 25.0	161 23.1	101 14.5	53 7.6	696 100.0

世帯主の職業



世帯主の配偶者の状況

